



熊本地震仮設住宅団地の「みんなの家」を新たなコミュニティ 熊本地震「みんなの家」利活用

形成の場に プロジェクト

アートポリス事業の一環として進めていた、熊本地震における「みんなの家」プロジェクト。応急仮設住宅団地内に84棟が整備された。熊本地震から住まいの再建が進み、仮設住宅団地の閉鎖に伴い「みんなの家」も役割を終える。この「みんなの家」を新たなコミュニティ形成の場や地域づくり拠点に生かすため、移築などによる利活用プロジェクトを進めている。

菊陽町 菊陽南小学校放課後児童クラブ



みんなの家2棟を移築・合築し、菊陽町の小学校区の放課後児童クラブとして活用された。内部はもとのみんなの家の特徴を生かした木のあたたかみがある空間となっており、木の香りがして落ち着くと利用する子どもたちにも親しまれている。

- 設計者 株式会社ロジック
- 施工者 株式会社ロジック
- 延べ面積 76.00 m²
- 完成時期 2020年4月



西原村 袴野地区集会所



西原村小森第三仮設団地のみんなの家2棟を移築・合築。限られた土地で移築する難しさはあったものの、キッチン棟と25畳の広間がある本棟をL型に組み合わせることによって地区の豊かな景観に馴染んだ建築を実現した。区長の山田氏は「この新しい集会所も50年以上は親しんでいきたい。西原村の情報発信拠点として利用していきます。」と語っている。

- 設計者 株式会社セルアーキテクト
- 施工者 高橋工務店
- 延べ面積 94.67 m²
- 完成時期 2020年7月



西原村 星田地区公民館



西原村小森第四仮設団地のみんなの家2棟を移築・合築。被災した公民館を解体し、地域の人たちが花見に訪れる桜の木があり、集まりやすい広場だった場所に移して、新たな公民館として生まれ変わった。区長の大川氏は「地域のみなさんの協力があってこそいい形で実現できました。愛される建物になるように願っています。」とコメントした。

- 設計者 株式会社産総設計
- 施工者 有限会社フルケン
- 延べ面積 72.87 m²
- 完成時期 2020年7月



益城町 田中行政区公民館



益城町小池島田仮設団地のみんなの家1棟を移築。深い軒下空間に広い縁側など既存の建物形状を最大限生かしたプランとなっている。特徴的であった玄関横の朱色の壁面を含めた外観の行まいが継承されており、熊本地震の記憶を留めつつ、新たな地域の拠点として活用されている。

- 設計者 森繁
森繁・建築研究所
- 施工者 株式会社五瀬建築工房
- 延べ面積 65.08 m²
- 完成時期 2020年8月



御船町 七滝中央小学校放課後児童クラブ



みんなの家1棟を曳家により移築し、小学校区の放課後児童クラブとして活用された。曳家工事にあたっては、施工者の協力のもと隣接する保育園の園児たちが曳家を手伝うイベントが開催された。

- 設計者 株式会社エバーフィールド
- 施工者 株式会社エバーフィールド
- 延べ面積 42.97 m²
- 完成時期 2020年11月



御船町 ふれあい広場交流施設



みんなの家3棟が移築・合築し、震災後に応急仮設住宅の敷地として活用された公園内の交流施設として生まれ変わった。公園内には県が進める「ONE PIECE復興プロジェクト」によりブルック像も設置され、熊本地震からの復興のシンボルとなっている。

- 設計者 株式会社エバーフィールド
- 施工者 株式会社エバーフィールド
- 延べ面積 85.94 m²
- 完成時期 2020年12月



甲佐町 府領区公民館



甲佐町白旗仮設団地のみんなの家2棟を移築・合築。80名程度が一堂に会することができる大広間や小上がりの畳の間等、様々な地区の行事に対応できるプランとなった。いくつかの案の中から住民の方に選ばれた梁・天井のカラフルな塗装が特徴的。府領地区の本田氏は「みんなの拠りどころや災害時の避難所として活用していきたい」とコメントした。

- 設計者 渡瀬正記+永吉歩
設計室
- 施工者 株式会社五瀬建築工房
- 延べ面積 108.63 m²
- 完成時期 2020年12月



南阿蘇村 新阿蘇大橋展望所



地震により崩落した阿蘇大橋の架け替えとなる「新阿蘇大橋」に併せて整備された展望広場内の休憩所として、南阿蘇村陽ノ丘仮設団地のみんなの家が活用された。外壁には仮設住宅の縁側等として使われていた木材が活用され、熊本地震の記憶と教訓を語り継ぎ、未来へとつながる、新たな地域の拠点となることが期待される。

- 設計者 古森弘一
古森弘一建築設計事務所
- 施工者 株式会社エバーフィールド
- 延べ面積 34.78 m²
- 完成時期 2021年2月

